

市政に関する

一般質問

令和6年第4回定例会の一般質問には、21人の議員が登壇し、市政に関するさまざまな議論が展開されました。

各議員が行った質問のうち、1問についての質問・答弁を通告順に掲載しています。

なお、「問」部分については、各議員の草稿によるものです。



児童の体力低下の課題と 体力増強について

流政会 青野 直

問 教育委員会では、「基礎体力」心身の育成の推進「生活習慣の確立」「安全教育の推進」を掲げ、学校現場と一体になって健やかな体づくりに取り組んでいる。本市児童の体力低下の課題をどのようにに捉え、体力増強に向けて取り組んでいくのか。

答 学校教育部長 小小学5年生と中学2年生を対象とした令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、前年と比べると若干の向上が見られましたが、令和元年度の水準には至って



2025デフリンピック 東京大会について

公明党 岡 明彦

問 ①デフリンピックの認知度向上のための展示開催までのカウントダウン表示を行ってはどうか。②小中学校を中心に幼稚園、保育園などへの啓発にも努めるとあったが、今後はどう啓発するのか。

答 生涯学習部長 ①カウントダウン表示は、現在は考えていませんが、開催に向け機運を高める取り組みとして、庁内関係部署と連携し、検討していきたいと考えます。学校教育部長 ②デフリンピック東京大会開催に当たり国から依頼のあつ



交流人口を 増加させるには

森田 洋一

問 住んでよし、訪れてよしのまちの実現には、まだ課題がある。江戸川台駅東口周辺の再整備には近隣から来訪者を誘致するツーリズムの視点が、運河周辺では見る・食べる・遊ぶなどの周遊型観光を切り口に可能性の模索が必要ではないか。

答 市長 江戸川台駅東口周辺地区では、ここにいたい、ここに行きたいと感じられる場づくりを目標に事業を進めています。ジェトロ跡の施設は、地域の方と来訪者の交流空間を目指しており、取



認知症の人に寄り添った 地域社会の構築を

公明党 桑畑 伴子

問 認知症基本法が施行された。「新しい認知症観」を定着させるため、認知症サポーター養成講座のさらなる展開や、啓発資料の作成・配布など、認知症に関する知識および認知症の人に関する理解を深める取り組みを強化すべきではないか。

答 健康福祉部長 認知症サポーター養成講座は、令和5年度は一般市民のほか、市内の小中学校や企業などに対し行っており、平成18年の講座開始以来累計2万2811人が受講しました。新しい認知



性的マイノリティー差別・ 排除のない社会を

阿部 治正

問 「パートナーシップ・ファミリーシップ届出制度」の存在とその意義を知らせるため、広報活動を積極的に推進すべきではないか。また、肌の色やセクシュアリティなど、その人の特性を差別することとは、人権に著しく反すると啓発すべきではないか。

答 総合政策部長 制度について、広報がなげやま、市ホームページ、SNS、制度概要を案内する印刷物などで周知啓発を行っています。令和6年11月には多様性を尊重する意義やパートナーシ



本市の子どもにやさしい 施策方針について

公明党 野村 誠

問 子ども・若者の居場所づくり支援について、柏市で行われている若者が望まない孤独を防ぐ「ふらっぽ北柏」の取り組みを参考に、中高生が気軽に立ち寄り、安心して自由に過ごすことができる居場所を早期に設置すべきと考えるがどうか。

答 子ども家庭部長 市としては、中高生や若者が気軽に立ち寄り、安心して自由過ごすことができる居場所の提供を進めていくことが、子どもや若者の成長を促すことにつながると考えていま



流山市総合運動公園の 再整備について

流政会 石原 修治

問 ジョギングコースの距離標はどのような設置方法を考えているのか。また、ルート案内の設置について、いくつかのジョギングコースが計画されることを考えると、ルート決めを検討する上で、意見聴取などをする予定はあるのか。

答 まちづくり推進部長 1点目の距離標の設置方法については、石原議員がおっしゃった、十太夫近隣公園と同様の路面標示を基本に考えています。2点目のジョギングコースのルートを検討する際



議員が草稿を作成した記事において、特定の名詞の表記（「障害者」を「障がい者」と表記するなど）については、議員本人の意向を尊重して掲載しています。そのため、異なる表記が混在する場合があります。予めご了承ください。